



深田久弥

# 山の文化館だより

令和2年  
夏号

深田久弥 山の文化館  
〒921-0067  
石川県加賀市大聖寺春場町十八  
TEL 〇七六(一)七二一三三三一  
FAX 〇七六(一)七二一三三一

## 山の日フォーラム IN 加賀 開催決まる

「山の文化を未来につなぐ」(仮称)のテーマのもとで、山の日フォーラムIN加賀が、来る十一月七日(土)加賀市民会館を会場に、開催されることとなりました。

これは、一般社団法人全国山の日協議会が、「山の日記念大会」だけではなく、山の日フォーラムが全国各地の地方都市で開催されることを目指したものです。そこで全国山の日協議会は、深田久弥山の文化館のある加賀市での開催を打診し、地元に加賀市、およびNPO法人深田久弥と山の文化を愛する会が共催団体としてとして参画することになりました。

内容としては、基調講演の後、山林等里山の環境保全と地域活性化の推進を実施している個人や団体の事例報告と、パネルディスカッションという内容で、鋭意準備中です。

全国初の試みであり、ぜひ成功させたいものです。

詳細については各団体のホームページなどでお知らせします。ご参加をお待ちしております。

### 久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と その10

「山の好きな者にとって、陸地測量部の五万分の一の地図ほど、親しみのあるものはない。」という書き出しの文章に目がとまった。題名は「信州峠」である。「信州から甲州に越える峠を歩いてみようと思つて、五万分の一の「金峰山」図幅を出してみた。」とあるのでさっそく、深田久弥愛用の地形図の中から「金峰山」を探し出してみた。地勢図甲府の五番である。文章にある通り、甲武信岳から瑞牆山にかけて多くの赤鉛筆のラインや、山や谷の名前が書き込まれていた。それらの多くは、高等学校時代に登つたものだが、信州峠行の二十年後に訪れた北奥仙丈ヶ岳行の時のものもある。その多さは、今までに見たことがないくらいのものである。しかし、今回の話題はそれではなく、「信州峠」である。その場所は地図の左端にあった。そして、「信州峠」と登り口の「御所平」という二つの地名を、赤鉛筆で丸く囲んであるだけであった。文中で「易しい峠越え」と書くところの今回の山歩きは、標高差が三百メートルと少ないことばかりではなく、久弥さんの志げ子さんへの思いやりも含まれているのであるのか。と言うのは前年(昭和十六年)の暮れ、

志げ子さんは灯火管制下の暗がりの中で柱に額をぶつけ、骨にひびが入り絶対安静の状態であった。そんな春五月、新緑の山々が見たいという志げ子さんの願いを叶えるべく、ゆつたりとした峠歩きに出かけたのでした。そして、新緑の落葉松林の美しさや、峠の頂上付近のゆつたりした草原、そこからの山々の展望を楽しんだようです。

#### 「参考文献」

『をちこちの山』「信州峠」  
人物書誌体系14 『深田久弥』



## 新型コロナウィルス感染予防による

### 山の文化館のいま

二度の臨時休館を経て六月一日からは、ようやく通常の開館の運びとなりました。

六月十九日には久しぶりに読書会が開かれ、三密を避け広く間隔をとった座席において久弥の「笈岳」を、マスクをつけて読みました。

## この一冊

『玉まつり』と題された水色の空に富士写ガ岳を配した、美しい装丁の本がつい最近上梓されました。

作者は門「玲子氏（当館にも来られた作家で大聖寺出身）です。副題に「深田久弥『日本百名山』と『津軽の野づら』とあります。『玉まつり』と『津軽の野づら』の言葉に惹かれ読み進みました。

再会、出会い、めぐりあわせ、いくつもの謎、そして最終章は二つの旅と区切られて記されています。最初の再会の書き出しの志げ子夫人と門氏の何気ない会話から始まるのですが、門氏の女性らしい細やかな文章の運びに、二人の久弥氏の追憶の情が伝わってきます。玉まつりの題がついた所以かと思われました。

当然ながら津軽の野づらや、北島八穂についての作品や人物にも触れることになるのですが、数多くの文献もさることながら久弥氏の係わりの方たちや背景もとても綿密に書き込まれてあり、当時の久弥氏の思いなど興味深く読むことができました。



六月二十一日の聞こう会では、県自然解説員研究会の山下光信氏をお招きして、白山の気象について、ゆったりと席をとりながら有意義なお話を聞きました。この時にはZoomを利用するの二会場の実験をし、大人数への対応も可能であることを確かめました。ウィズコロナ時代、種々の対策をとりながら、運営をしてまいります。どうぞ安心してお越し下さい。

門氏の若かりし頃から久弥氏と共にされてこられたことがあってのことと聞いています。

晩年の八穂に対する作者の思いも「彼女は、おそらく終生寂しかったのではないだろうか」と書かれています。『玉まつり』に繋がっているのではないのでしょうか。長い間の宿題であった、と作者は述懐されていますが、門氏ならではの大作を読ませていただきました。

## 「深田久弥最後の頂 蛇峠山展」

開催期間 九月十四日（月）まで

開催場所 深田久弥山の文化館聴山房

## 聞こう会予定

月に一度、山に関わるお話を聞いています。ぜひご参加下さい。（聴講無料）

午後一時半より三時

深田久弥山の文化館聴山房

7月19日（日）  
演題：白山と写真と私  
講師：荒牧 良一氏

8月10日（月祝）  
演題：信仰の霊山 白山  
講師：田嶋 正和氏

9月13日（日）  
演題：未定  
講師：高門 光太郎氏

## 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。（参加無料）

七月 十七日（金）

『日本百名山』より「至仏山」

九月 十八日（金）

「深田久弥の追憶」

●場所 深田久弥山の文化館  
●時間 午後一時半より三時

\*詳細はホームページをご覧ください

## 編集後記

コロナ感染に振り回されながら、気がつけばもう緑濃き初夏です。色々を配りながら、毎日を元気に過ごしましょう。

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>